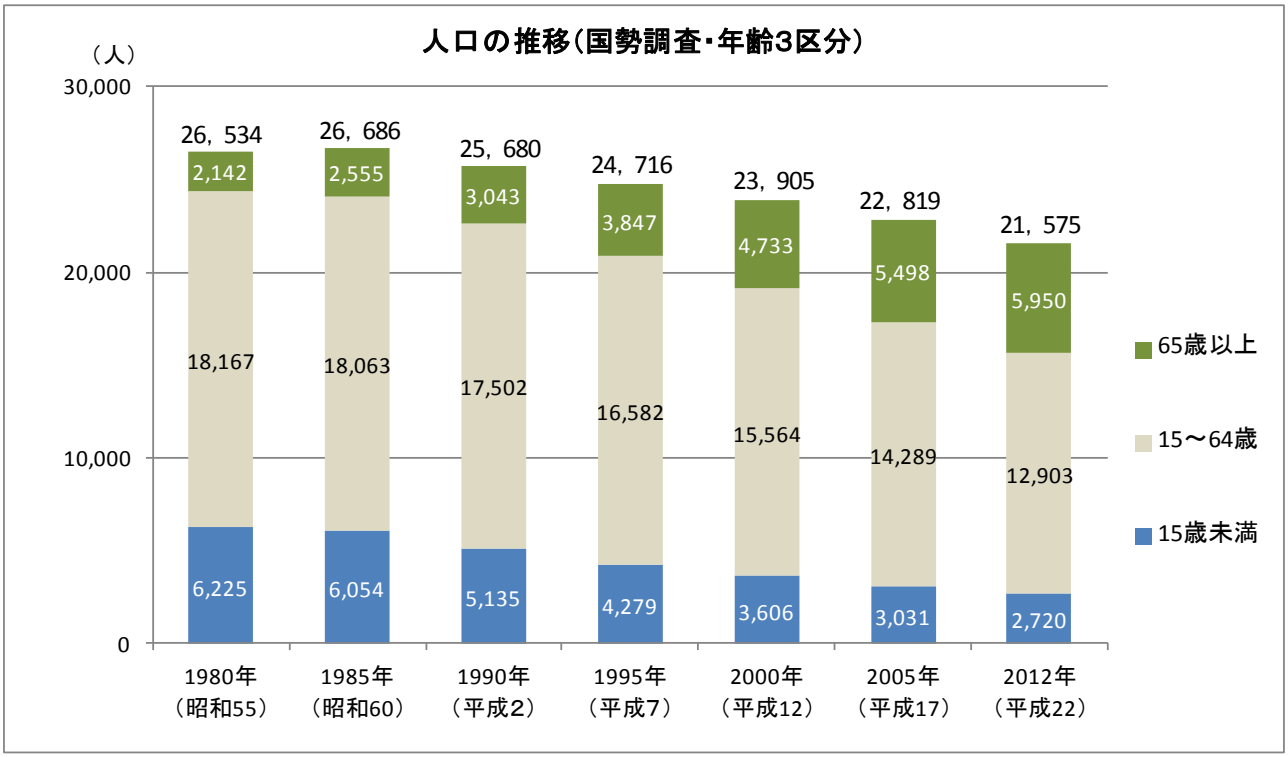
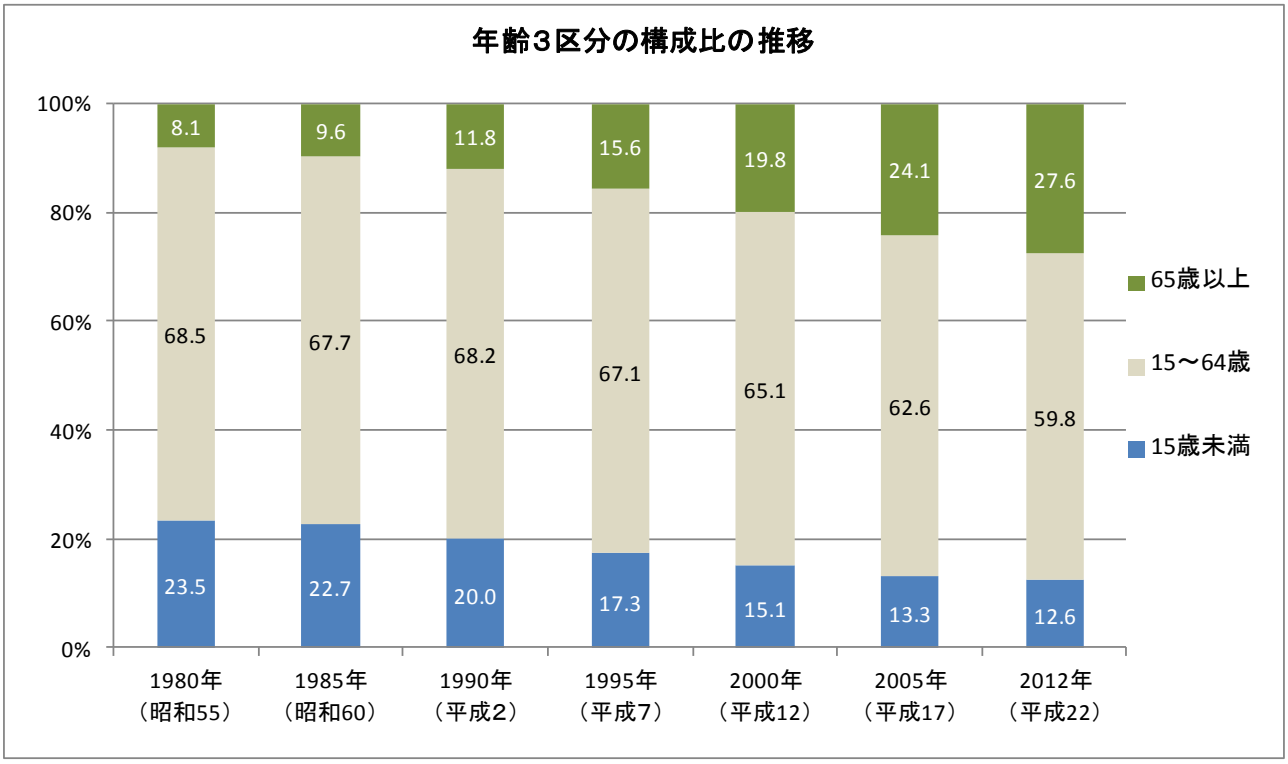
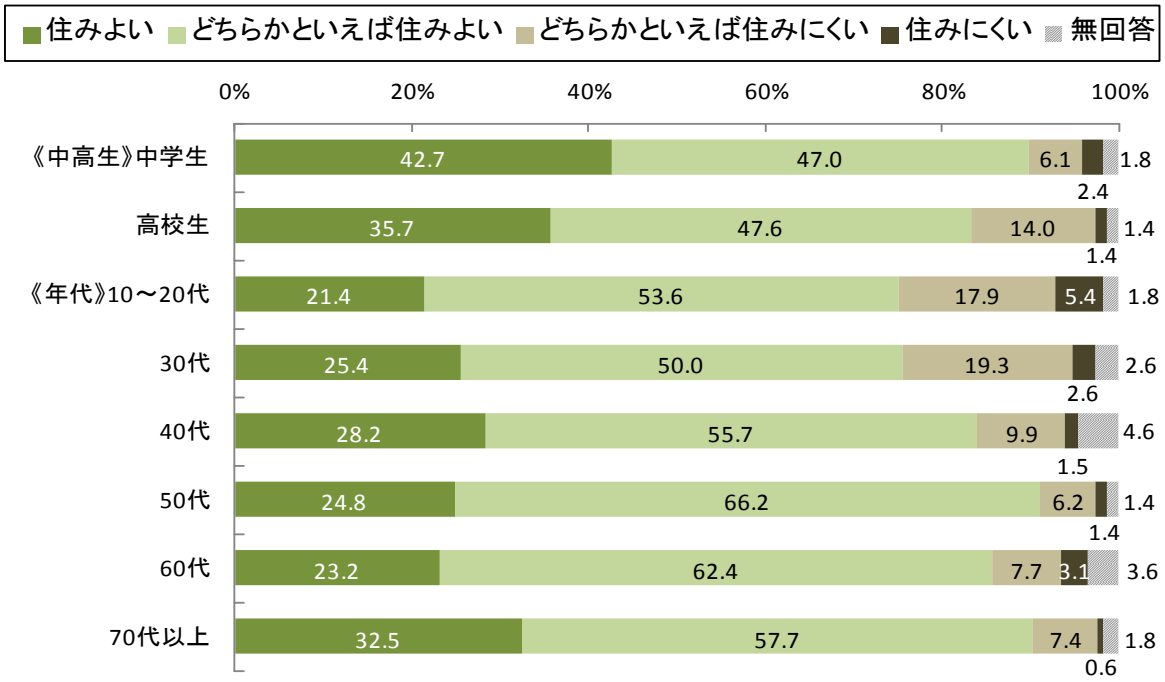
1　人口減少対策（少子化対策、移住、定住）

（１）関連グラフなど

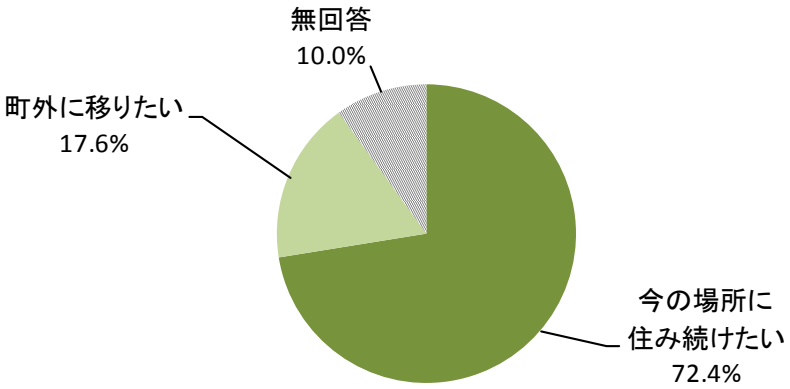


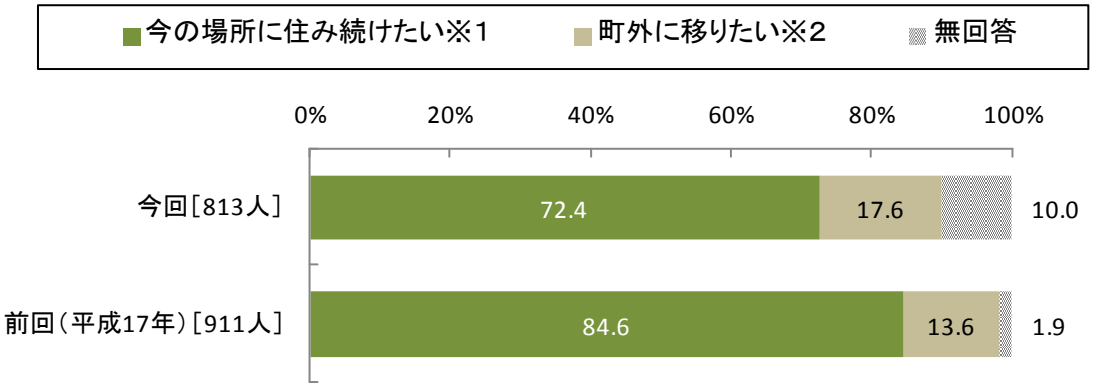
## 【問１】現在の美幌町の住みごこち（町民・中高生）




町民 **【問４】美幌町に住み続けたいか（813人）**

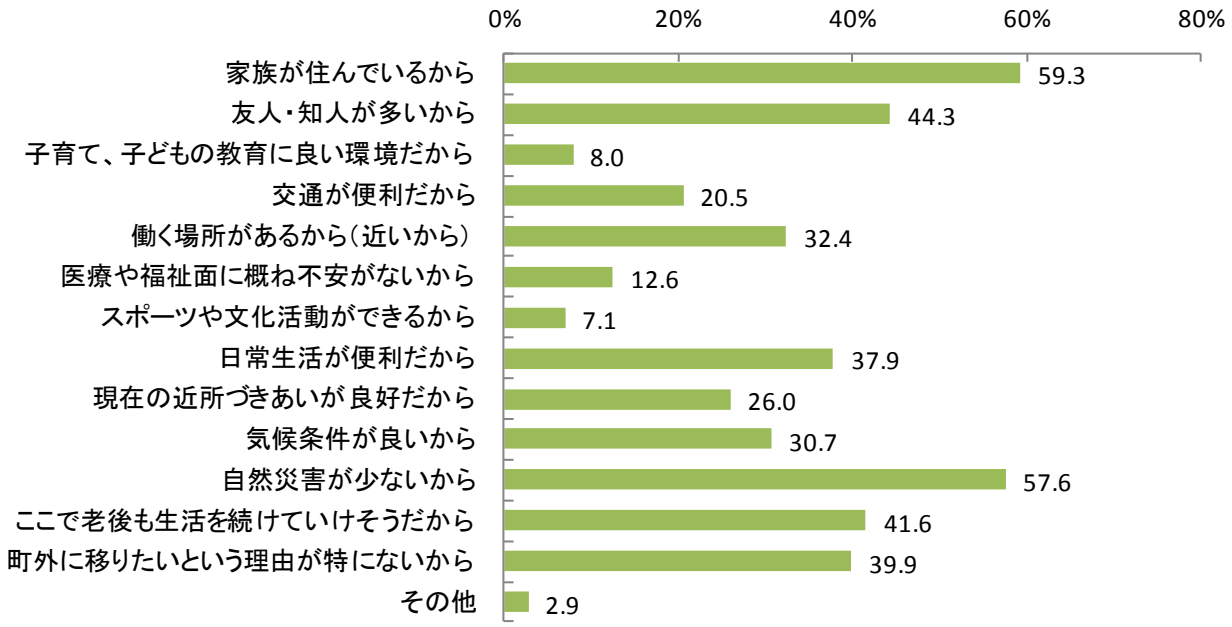



### 【問４】前回との比較

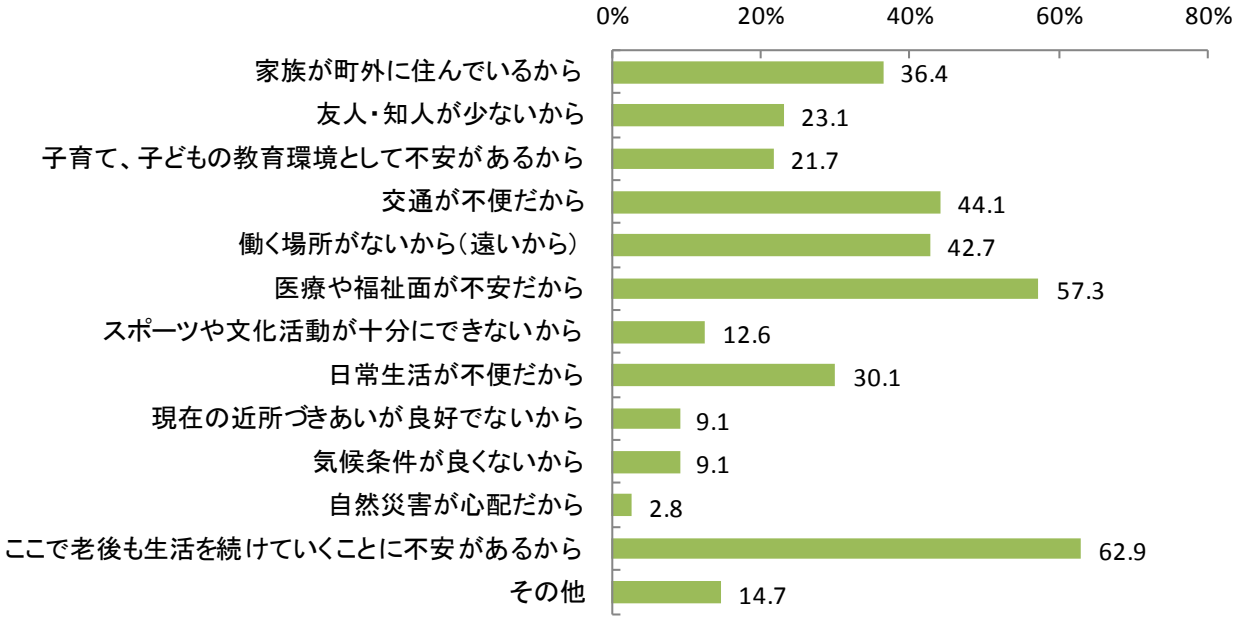



※1：前回の数値は「今の場所」と「町内の別のところ」の合計
※2：前回の数値は「道内のどこか」と「道外」の合計

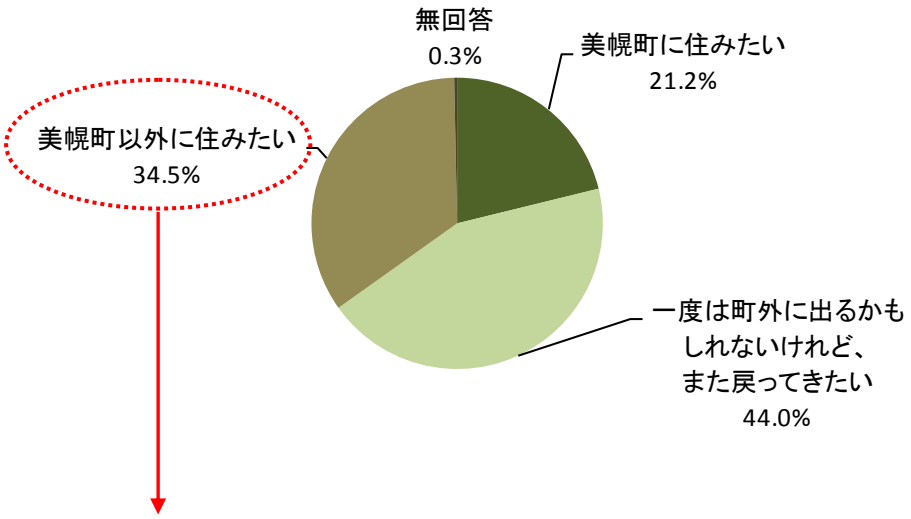
**【問4-①】町内に住み続けたい理由（すべて選択/589人）**



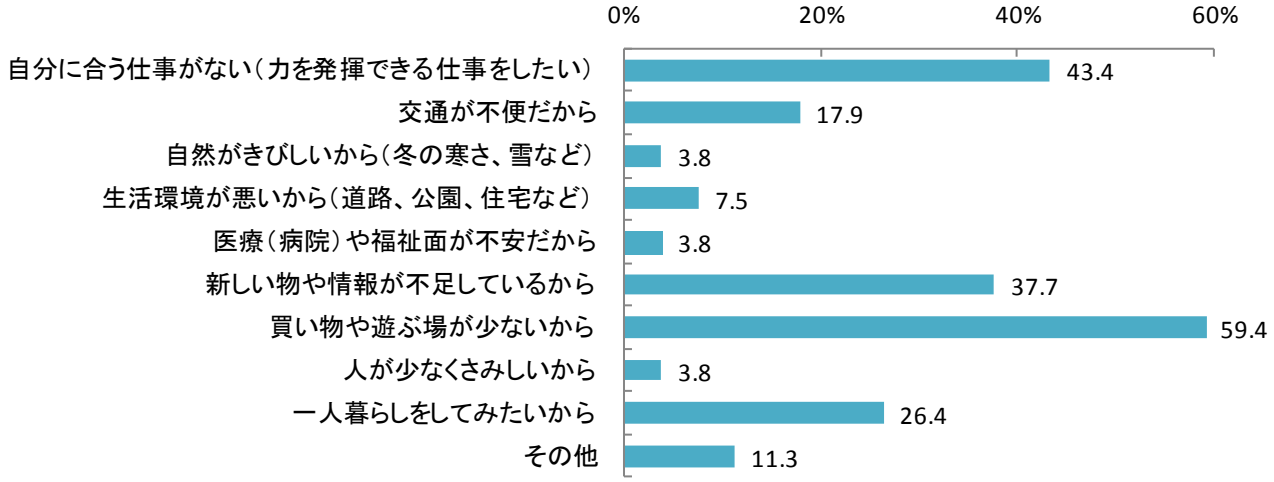

**【問4-②】町外に移りたい理由（すべて選択/143人）**



中高生 【問3】定住意向（307人）




【問3-①】町外に住みたい理由（あてはまるものすべて選択）




（２）現計画の検証

| 施策 | 主な取り組み | 進捗状況 | 問題・課題 | 今後の見通し、方向性 |
|---|---|---|---|---|
| 国内交流の推進<br><br>（「9　国内外交流」と重複） | 移住・定住受入れ体制の充実 | 現在、移住・定住を受け入れるための住宅はないが、美幌の暮らしやすさを体験してもらう”ちょっと暮らし”事業を推し進め一定の実績を得た（H25 利用実績 5 組 14 名、H26 利用希望者 8 組 17 名）。H25 年度には、長期滞在型観光事業においてポスターおよびパンフレットを作成し広く反響を得た。 | 直接の移住者・定住者の獲得には至っていない。また、地元との交流を望む声に対し体験プログラムを考えてゆかなければならない。 | 移住・定住に関しての二ーズや課題を把握するため、ちょっと暮らし利用者に対しアンケートを実施し検討の参考としたい。また、交流・体験プログラムを用意するため、今まで以上に様々な団体との連携を図りその基盤を構築する。 |

（３）意見、提案

※「町民アンケート」の自由記載にあった子育て支援関係の意見は「子育て支援」の項目に記載しています。
※この項目（1　人口減少対策）にある職員アンケートの内容は「人口減少問題に対して」という設問で出てきた提案です。

| ☺：小学生　✪：中高生　❀：育児ママ　⚐：自衛隊　⌘：高齢者　●：町民　○：職員 |
|---|

✪ 人口が増えるまちづくりをしてほしい

● 大好きな美幌にずっと住みたいです。子供達には、元気で、大人になっても美幌で働いて、住んで人口が増えるといいです。（女性・40 代）

● 人口減少に歯止めがかかるよう、過疎化しない事を願う。（男性・60 代）

● 日甜と自衛隊は美幌の核だと思う。存続に尽くすと同時に、無くなった場合の影響を予測しておくことが必要。人口減は必至なのだから、人口規模にあった心豊かなまちづくりの計画になることを望みます。（男性・60 代）

<若者、子育て（世代の）支援>

⚐ レジャー施設があるといい。旭川や札幌まで行く。雨や雪だと外で遊べないので。

● 若い人が住める町にして下さい。（男性・50 代）

● もっと若者が集まる街になる様な工夫をしてほしい！若者が残らぬ街は廃れます。自衛隊の街だなんて云われは古いです。世代交代すら出来ぬほど若者が減っている現実に向き合うには、もっと思考すべき所がいっぱいあると思います。（男性・30 代）

● 子供達若者が健康的に遊べる施設があると、若い人達が美幌に残ったり、町外からも来るのではないかと思います。例えば、ラウンドワンのような所や映画館（ゲームセンターはいりませんが）、勉強したりおしゃべりしたり集まれる場所など。（よくシティの休憩場所にいる高校生、中学生たちを見かけますが、そういう場所がお店ではなく施設としてあるといいと思います。）←ちょっとした明るいカフェ的な感じで。（女性・40 代）

● 若い人達がＩターン、Ｕターンできる町であってほしい。町の企業の経営者が、（雇用する）若者が生活でき、家庭を持ち子供が出き、美幌町に定住出きる様な意識がもっとあると良いと思います。自治会活動にも、普通の若い人達が参加出きる様な町。高齢者社会を支えていただくのには、若い人達の力が必要だと思います。（女性・60 代）

● 若者が残れる様な企業誘致が必要。他町村から集まって来る様なイベントが必要。びほーるの有効活用→若者向けのコンサートを行うなど。（男性・40 代）

● 町としては環境も悪くなく、人も温かく住みよいと思いますが、町づくりとなると実感すべき事項が私には少なく感じられます。先ず、人口の自然減は避けられないとしても、流出を防ぐための子育ての出来る環境や安定した収入の得られる企業の誘致等、切迫感が行政にあるのでしょうかと感じせずにはいられません。人がいないと町は成り立たないと思います。（女性・50 代）

● 今後、若者達が美幌町に住み続けたいと思われる町づくりが必要だと思います。（男性・50 代）

○ 若年層永住のためにはやはり娯楽施設や就労場所の充実が大切だと思います。

○ 大きな商業施設や、ファーストフード店、ゲームセンターなど若い世代が楽しめる施設があれば若い世代の人口流出を防ぎ伸ばしていける

○ 夜遅くも利用できる場の提供。若者の流失の一つに、仕事が終わったあとなど夜の時間帯

に魅力がないという話が聞かれます。夜も語り合える安全な場所があれば、若者の活性化につながる

- ○ 若年世代の永住を考慮した雇用環境の整備
- ○ 若者が楽しめるような場所の増加により町外転居者を減らす
- ○ 「子供を産みたい、産みやすい環境」として医療費助成の拡充、子供の遊び場の整備、教育費の助成など子育て世代の住環境の充実。福祉施策の多くが高齢者対策に向けられている現状を再考。
- ○ 子育て世代の若者が、住みやすい・子育てがしやすい街づくりをすることが人口増加に繋がると思うので、住居や公園などの充実や整備、子育て支援体制の整備が必要。
- ○ 町全体で子育てを応援できるような制度づくり
- ○ 働く女性でも子供を産みやすい・育てやすい環境をつくるために、日曜・祝日の託児を無料もしくは低価格で受けられるようにする。
- ○ 母親が働きやすい環境を整備するための長時間保育の実施
- ○ 残業の廃止（家庭時間の充実）
- ○ 共働きしやすい環境づくり。（児童館・託児施設・企業も赤ちゃん同伴出勤体制など）
- ○ 男性の育児休暇をもっと活用できる雇用形態へ。
- ○ 父親が育児に参加し、母親を育児から一時的にでも解放する施策として、「おかあさんも休みたい日」を制定し、その日に子どもと父親が一緒に遊べるイベントを実施。
- ○ 子育てする親が集まり相談したりできる場所やイベントを増やす
- ○ 子どもをたくさん産めるよう、財政的な支援はもちろん、精神的支援を充実させる。（安心して預けられる場、相談する場の充実、学校での活動、給食の安全など）
- ○ 保育園、一時預かり保育（ファミリーサポートセンター）、保健師事業等育児家庭に関わる機関が互いの情報を共有しながら、育児家庭に関わっていくことが大切。
- ○ 子育て支援について保育園や学童保育などでフォローする。
- ○ 育児・家庭相談窓口の充実
- ○ 子育て支援（出前支援）、親育ち支援（親子教室）、堕胎させない（特別養子縁組）
- ○ 人口減少対策が成功している自治体は、高校生まで医療費無料、３人目からの出産に対し出産祝金の支給等、子育て世帯にやさしい環境が整えています。オホーツク管内で先駆けて導入し、子育てをするなら美幌町というイメージを定着させる。
- ○ 基幹産業がしっかりしている地域は僻地でも出生率が高いと聞いている。若い人が定職に就き一定以上の収入を得ていれば結婚、出産に向くと思う。ただ、０歳保育は民間頼みで公立の保育所も高い。共働きで収入のある家庭の方が支援さえ厚ければ第２子第３子と育てていく力があるのでは。学童、障害児・者対応の充実も必要。
- ○ サークルや母親学級など母のふれあいの場を作る
- ○ 奨学金をもっと出す
- ○ 育児についての情報、育児の楽しさを広める場が必要

＜保育＞

- ○ 保育所の増設や保育料を下げる（所得に応じてだが、幼稚園に比べて高すぎると感じる）
- ○ 保育所の充実など仕事を持った親も育てやすい仕組み作り
- ○ 就職先確保にあわせた保育施設の整備
- ○ 保育料を安くする、0 歳、1 歳児の保育所利用の枠を広げる、リフレッシュでも託児をしてもらえる。（子育てにイライラするという保護者がいるため）

○ 24 時間保育園の設置

○ 保育料の無償化、預かり保育等の充実。

○ 町外出身者同士の夫婦も多く、子供を預ける場所が少なく、安心して子育て出来ないため、町外出身者への優遇処置を図り、町外からの人口の流入を図ることも考慮すべき。

＜産婦人科＞

○ 産婦人科（国保病院への配置に限らす）の本町での開設

○ 美幌町に安全な産婦人科があればいい。せっかく発達支援、子育て支援、療育病院と子どもに恵まれた環境にあるのだから連携強化し子どもを育てやすいまちとしてＰＲしていく。

○ 民間の産婦人科を作ってほしい。

○ 町立病院は産婦人科は休診状態であり、医師の退職などが見受けられる。必要な医療を身近に受けられる環境づくり

＜不妊治療助成＞

○ 不妊に悩む人が増えている。子どもが欲しくても、人工授精に１回 60 万など高額。出会いの場も大切ですが、不妊治療に対する補助などもあれば、子どもが欲しい夫婦などはもしかしたら美幌町に転入してきたり、また今いる美幌町民の人口増にもつながる。

＜医療費、保育料などの助成＞

○ 出産、子どもの医療費に対する助成

○ 保育料や教育費の援助、助成

○ 子ども医療費の年齢要件の拡大など

○ 医療費を高校生まで無料化、保育料の減額など、この世代に最大限の投資をしてもよいのでは

○ 児童手当の独自増額

＜出生人数に応じた支援＞

● もっと子育て支援と言うか、子供に対する支援が必要だと思います。なぜなら、高齢化していて福祉関係の支援が充実しても、子供に対する支援がないとますます高齢化になると思います。例えば、美幌在住で子供を出産したら 5,000 円、２人目は１万円、３人目以降は３万円。また、美幌町内の企業に就職したら 5,000 円等、子供が住みやすい町にした方がいいと思います。金額が少なくても、やらないよりはやった方が他の地域と差ができますし、何か他の地域がやらない事をやっていかないと、町としても衰退していくだけだと思う。（男性・10～20 代）

○ 結婚祝い金のようなものなど人口増加に係るものに対しての助成があってもいいのでは。

○ 子どもが産まれた家庭には出生人数に比例した奨励金をあげて人口を増やす

○ 子供たちへの助成金等の支給（第２子～50 万円、第３子 100 万円の支給）

○ 医療費等の免除などの経済対策を実施するのであれば、よくある第３子無料ではなく、第３子がいる家庭は第２子（又は第１子）から無料など。とする方が２人いれば、３人目も産もうとつながる。

○ 子供が２人以上いる家庭の教育費、医療費等の手厚いサポートを充実させて職場は美幌町でなくても、美幌町で子育てしようと思わせることが重要

○ 子ども３人目が産まれた家族については、医療費、学費等、高校卒業まで免除するといったような町独自の取り組みをする。１家族当たり子ども２人だと人口はプラスになってはいかないので、３人目というところに注目している。

○ ３人目を出産した家庭に、２人目分から補助制度や助成制度を活用できるようにするなど、２人子どもがいる世帯が３人目にトライしやすい環境をつくる。
○ 子ども３人目以降祝い金などの創設。
○ 子ども４人目からの世帯に対する助成。（保育料減免、給食費減免、公営住宅家賃減免など）

＜公園、遊び場＞

⚐ 子供や若者が遊べる場が少ない。
○ 子どもから大人まで利用できる大きな公園等の施設ができて欲しい
○ 道立の大規模公園の誘致。（近隣では十勝、中標津、紋別にあり、美幌にできれば近隣からの来客が期待できる。）
○ 子どもが天候に左右されず安心してのびのびと遊べる場所を増やすなど
○ 子供や親が安心して遊べる、施設や遊具の整備。

＜教育＞

○ 町独自の教育システムを導入することで、この町に住めば教育環境が劇的に変化するなどの魅力をつくる。子育て環境として美幌町がいいと思えること
○ 学習環境の整備により他の地域よりも住みたいと思える
○ 学校施設の充実
○ 子どもの教育レベルの向上。ここの学校に行くと子どもの教育に良い、学力が向上するなど良い情報があれば、美幌町に転入してまで通わせたいと思う親がいるのでは。優秀な教職員を美幌町へ赴任させる。又は町が敏腕教師を雇用する
○ 時間はかかりますが、若者の意識改革（教育）に取り組むべき
○ 学校（教育分野）の質の向上（北見市の高校に進学するなど、卒業後も地元に残らない）
○ 高校のレベルアップ

＜住宅＞

○ 単身者でも入居しやすい家を増やす
○ 単身者向けの低賃金アパート・マンションの増設
○ 独身者用公営住宅
○ 近隣へのアクセスが良いので、住宅地としてのニーズがあるのではないか
○ 若い世代に向けて優先的に公営住宅をあてるなど
○ マンション等の共同住宅を増やす
○ 低家賃での住居の提供、家賃の安い住宅の提供、
○ 住宅地支援事業（町が保有している土地を移住してくる人の無償譲渡）
○ 住宅建築費用等の住居取得の助成や提供
○ 定住希望者への町所有遊休地の提供と土地取得に対する補助及び固定資産税等の軽減
○ 小学生以下の子どもがいる家庭が、住宅建築(又は中古住宅の購入)する場合に奨励金を支給、既存の町産材活用助成などとパッケージングして利用できるようにしてはどうか？
○ 町で所有している住戸を改修し、定住希望者への体験住戸として提供
○ 空き家をネット上で簡単に検索できるデータベースを整備し、移住の素地を作る
○ 持家を管理しきれない高齢者などや転入者の家賃軽減対策など、需要があれば自衛隊官舎が相当空いていると聞くので活用できないのか
○ 自衛隊官舎等を賃貸して空き家を解消する有効活用

○ 農家などの空き家を町外者に町で斡旋する

＜働く場＞

- ● もっと若い人達が働ける場を作ってもらいたい。美幌に居ても仕事が無いから、結局、高校を卒業したら皆地方に出て行かざるを得ないと思います。（女性・50 代）
- ○ 一度美幌町から転出した後にそのまま町外に滞在する場合が多い。帰りたくても帰れない人も多くいると思いますが、やはり戻るためには就職先が必要なので、雇用増加が必要
- ○ 成人式での地元企業ＰＲブースの設置
- ○ 高収入を得ることができる産業を育てる
- ○ 町内企業の PR や企業誘致など働く場所の確保に重点を置く。
- ○ 町職員による美幌名物の発掘・発案により仕事を増やす
- ○ 大規模国営事業への参加（誘致等）
- ○ 美幌町に仕事場を提供してくれる企業（個人含む）等に条件（無償、建物・土地の無償提供）を提示してインターネットなどで全国公募する
- ○ 税の減免措置や土地の提供などにより大企業、テーマパークの誘致
- ○ 生活に必要な賃金をかせげるまちづくり
- ○ 労働者の給与の見直しと改善。将来的に生活費、教育費の捻出が出生率の低下に拍車をかけている
- ○ 若者が就職先として選択するような魅力ある企業の誘致

＜企業誘致、起業支援＞

- ● 若者の地元定着の促進。企業の誘致。（男性・50 代）
- ○ 空オフィスをネット上で簡単に検索できるデータベースを整備し、企業誘致の素地を作る。
- ○ 若者には可能性がある。起業しやすいまち、起業する者に優しいまち、といった具合に、既存企業を誘致する方法以外にも新しく事業を始めて可能性のあるまちにならないか。美幌町の人が他の市町村に仕事を求めて出て行くよりも美幌町で仕事が見つかる環境が第一
- ○ 大規模製造業の誘致
- ○ 東京から 2 時間（時間的には通勤圏内）のアクセスを生かし、オホーツクの大自然にローカルオフィスの設置を希望する企業、IT を活用して地方での起業を希望する移住者に対するきめ細かい柔軟なサポートを推進する。その前提となる素地造りに地域おこし協力隊を活用する
- ○ 大小問わず、有名な企業（スターバックスとかドトールとか）の誘致と働く場所の確保
- ○ お店を出す時にサポートする（補助金を出すなど）
- ○ 地域おこし協力隊の積極的活用

＜高齢者＞

- ● 逆転の発想で、高齢者を集めて人口を増やすと、介護福祉系や高齢者の人口増加にともなう仕事が増えるので、若い労働者を誘致できるかもしれないですね。（女性・30 代）
- ● 介護施設を増設し、障害者施設等を設けて（美幌町に受け入れ）、人口増加や雇用の充実に取り組んでほしいと思う。（男性・30 代）
- ○ 最近現役引退者の方の離町が目立つ。一町民の方が「美幌は福祉施設は充実しているとは思うが、臥床状態や認知症がその対象であり、日常生活に支障が無いがひとり暮らし（夫婦ふたり暮らし）に不安がある者の入所施設が近隣を含め少ない」と話していた。介護保険制度が施行され在宅介護体制が整備されているが、本州とは違い北海道では施設介護に対する思いがより大きいと感じる。第５期総合計画にも「ケアハウス」「高齢者生活支援ハ

ウス」の記載があるが、そのような方々の生活の質を尊重し安心できるものがあれば、現役を退いても美幌町に留まるのでは。

○ 現役世代が高齢者を支えるだけの施策は人も金も限界があるので、お互いに支え合うシステムを確立していくことが必要（高齢者が中心となる産業の構築、高齢者が地域の子供を育てる等）

○ 高齢化に伴う公共交通、買い物、病院、ボランティア等の充実

○ 介護福祉施設の充実。

○ 除雪に苦労し、マンションなどが充実した町へ転出する高齢者もいることから、高齢者の除雪や身の回りのサポートできる体制。

○ 町外から高齢者を呼び込み、それらに関連した企業、労働者を増やす

○ 寝たきりにならず元気で長生きして楽しめる老後をおくれる町、生きがいを見つけ生活できる町

○ 人口減少で生じる人手不足への対策。高齢者の対応をする介護職員、介護施設のスタッフ不足等の対策に取り組まないといけない（介護分野だけではなく様々な職場に対して）

＜出会い、交流促進＞

● 町外の人を呼ぶ交流会を開催をして、人が多く来町すれば、中には将来、ここに住みたいと思う人が自然と増える。（男性・50 代）

● 若者（未婚男女 20 才～35 才）の交流の場を設ける。最近流行の婚活形式ではなく、もっと自然にカップルができるようにー。例えば、男女混合のソフトボールチームをつくり、年に何度かリーグ戦をやる。北中出身者Ａチーム、北中出身者Ｂチーム、美幌中出身者Ａチーム、美幌中出身者Ｂチームなど。その場だけのチームにしない、監督もいる。（男性・60 代）

○ 道外など地方女性に「嫁に来ないか！お見合いイベント」開催。

○ まちコンの開催

○ 町でお見合いをするイベントをする。

○ 農業担い手者との出会い等の扶助。町外のシングルマザーが美幌に魅力と将来性、第 2 の人生を見いだせるようにする。農家の嫁問題と絡める。

○ 未婚者を減らす、婚活パーティー、異性との接し方がわからない人のための講義

○ 色んな人が交流出来る様なイベントの開催(8/16 美幌峠のビールパーティのような)

○ 結婚相談員活動の充実

○ 住民が参加しそうな小規模イベント（毎月フリーマーケット、Ｂ（美幌）１グランプリなどのコンテスト）を開催し交流の場を多くする。（場所の無償提供、広報びほろや町ＨＰで個人のイベントも広報する）

○ 美幌町に様々な場所から人々を招待し、美幌町の人々と交流する。

○ 季節移住のための民間アパートの活用や住宅補助のために商品券を活用するなど、官民一体となった場を設定し施策の推進や２居住（夏は北海道･冬は道外などの積極的推進やPR）の推進。

○ 交流人口を増やし、美幌町はどういう町なのか知ってもらう。まず、美幌町に足を運んでもらう事が重要だと思います。

○ 道外で定年退職した人がよく北海道に旅行に来ると思うのですが、「このまま美幌に住みたい」と思えるような魅力を発信できたら人口の増加に繋がると思います。

○ 宿泊施設の充実。（まずは美幌を感じて貰うところから）

○ 通過点になりがちなので名所をつくる。

○ 人が集まる街にする。人口が減ってもいいが、集めればよいのでは。美幌町は地図をみると主要国道４路線が合流する立地のよい場所。北見、網走に行くのではなく。北見、網走等から来てもらう対策・・・キャンプ施設（美幌峠？）通年型プール？ターゲットはファミリー世代だと思います。また、駅周辺の再開発。人が集まるところに人を集まりやすくすること。

○ お試し暮らし体験が好評な町（釧路市や遠軽町など）を視察して取り組み内容を確認したり、地域おこし協力隊を招聘するなどしてノウハウを構築していく。町のイベントにメインで参加してもらえるよう最大限のおもてなしをすることや、来たばかりでも町のことがわかるようガイドマップ的なものを配付するなど、お試し暮らしをすることで得られる魅力的な「特典」を考えアピールすることも重要だと思います。

＜Uターン促進＞

○ 町外へ転出した若者を呼び戻すためにUターン者向け WEB サイトを設置・運営など

○ 美幌町出身者の U ターン就職を促進、支援。

＜移住促進＞

● 更なる利便性を追求し、近隣の町村から美幌町に転入してくる様な施策を。（男性・50 代）

● 移住者の受け入れを。交通アクセスの利便性を首都圏にアピール、安価な土地の提供。（５年以内に家を新築する者に補助。）（男性・70 代以上）

● 美幌に住みたいと思う人が増える対策を、もっと早目に考えた方がよいと思います。（女性・40 代）

● 人口減は避けられないが、他地域からの受け入れを幅広く検討することによって、地域の活性化を図れるのではないか。（男性・40 代）

● 本州から美幌に住んでもらえる様に。（人口を増やす）（女性・60 代）

○ 町で移住した場合の助成制度を設ける（若年者が移住してきた場合の補助金制度など）

○ 空き家の活用。別荘・宿としての利用も含め、青年～中年層に訴求。「移住のすすめ」を提示し、定住化を図る。

○ 地域住民の移住者への理解、配慮。移住しやすい町。

○ IJU ターン者を受け入れる環境（住宅の提供、仕事の紹介～ワンストップ・サービス）整備や採用企業への支援制度を設ける。

○ 町内移住者への補助制度、美幌町へおかえり定住助成金など

○ 町おこし隊としての人を雇って、移住対策を行う。

＜医療＞

○ 医療機関が更に充実することで、人口流出を防ぐことができる。

○ 医師の過疎手当の高額公費支給や一戸建て住宅の確保などの条件をあげ医師の確保をする。

○ 病院内に託児所をつくる

＜エネルギー＞

○ 町で必要となるエネルギーを外部に頼らず自給できる持続的なサイクルを構築し（耕作放棄地に太陽光発電、ペレット等）、低炭素・低廉なエネルギー（光熱水）を住民・企業に提供。

＜広域的な視点＞

○ 美幌は交通の便がいいので、北見や網走で職があれば、定住先として選ばれることもあるのでは。

● 定住、移住できるような環境づくりを目指す。北見市のベッドタウン化。（女性・60 代）

○ 北見・網走市が車で 30 分圏内にある地の利を生かし、勤務地は町外でも居住地を本町とする「定住及び若い世代の転入促進」のために、住宅取得補助、新婚及び転入者家賃補助や子育て世代には出産から教育（地元高校卒業）まで保育・医療・教育費の完全無料化など、近隣市町村が真似できないの施策の実施

○ 近隣町村に職場があり、在住が美幌町となればと思います。その為には、子育てに少しでもお金がかからないことが大切かと思います。

○ 20～30 代の女性が子育てしやすいと思える環境を整えることにより、北見市のベッドタウンとして美幌に定住してもらう。

○ まずは中核都市のベッドタウン（魅力ある）を目指すのも手ではないか。

○ 美幌町が消滅することはないと信じていますが、人口減少社会の中では、行政の広域化を図るべき

○ 若年人口を増やすためには町内での雇用を充実させる（本町だけで企業を誘致するのは困難であると思うので、近隣自治体とタッグを組んで取り組むことも必要ではないか）

○ 美幌町だけが人口減少しているわけではないため、オホーツク圏とりわけ北網圏で企業誘致・観光産業の拡充・地場産業の育成等広域的な視野で取り組むべき。

○ 地域的に広く考えて、各市町が取り組める可能な分野を選択して、美幌(北見)周辺の地域人口急減に対応すべき。北見市では雇用の場を提供するとして美幌では特に何を力入れるべきか検討していく

○ 北見・網走の定住自立圏構想に加わることを前提に、高度専門医療や高等教育等の機関は北見・網走にゆだね、それらの都市へのアクセス改善に予算を集中する

○ 北見市のベットタウンとしての役割も加えて果たせるよう、北見～美幌間の高規格幹線道路早期完成を強く要請する、また先を見据えてＰＲ活動、区画整理を計画する

＜商業＞

○ 大通り商店街の見た目を変える（初めて美幌町に来た人やまだ来ていないけどストリートビューなどネットにより美幌町を見た人が来たい、住みたいと思えるような第一印象）

○ 空き店舗に多様（主に飲食店）な店を開くことで、外から人が集まり定住につながる

○ 街の中には、シャッターが降りたままの建物が目立つが、町は現行では中小企業に対する補助制度はあるが、町外からの起業者等にも町内の雇用が増えるのであれば同様に補助しては。古い建物についても街のイメージは悪くなるので取り壊しの経費に対する補助もあれば

○ 商店・飲食店・保養（温泉水を運ぶなど）・遊戯施設（カラオケ・ボーリング場など）を 1 ケ所に集めて複合商業施設を作る

＜農業＞

○ アスパラが日本一（生産量ｏｒ品質）→生産拡大（町補助）→観光名所（直売所・販売所の増設）→生産・販売に必要な雇用確保。

○ 農業の担い手不足の解消（誘致等）と発展

○ 低農薬、有機肥料で農作物を生産するために、研究費や補助金を捻出。都会から移住する新しい農民に、そうした農業を実行してもらう

○ 新規就農者支援（みらい農業センターの取り組み）。

○ 基幹産業でもある第１次産業の農業後継者・新規就農者の確保

＜自衛隊＞

○ 美幌町の人口維持を支えているのは駐屯地の存在が大です。人口増の施策を新たに設けることも必要ですが、国防、自衛隊の重要性は将来も変わらないと考えます。自衛隊駐屯地

の存置活動の充実を第一に置きながら、「住みやすさ」を軸にした施策が必要と考えます。

○ 美幌町は自衛隊の存続が大きく関係してくるので、削減反対を含み存続に力を注ぐ。

○ 自衛隊の現状維持または拡充

○ 自衛隊駐屯地の存続を強く求む。

＜町の良さをＰＲ＞

- 災害は少ない、ということは良い。
- 住んでみると、教育やスポーツなど、非常に手厚いサービスがあり、都会よりずっと住みやすく便利だと思います。その強みを活かして永住者を増やして欲しい。（女性・40 代）
- 美幌は気候が良く、オホーツクでは住みやすい町だと思います。空港も近く、高速バス、ＪＲなど、札幌や東京などのアクセスも良いと思いますが、これといった観光、特産物などがないので、通過点のような印象です。ケンミンショーなどでとりあげられるような産業、物産などができると全国的にも有名になり、通過点ではなく滞在、移住などにつながると思います。すぐは難しいと思いますが、10 年後、20 年後、長い時間をかけて取り組んでみることで、次世代が美幌町で安心した生活ができると考えます。（女性・40 代）

○ 修学旅行の誘致を行う。→将来の美幌町のファンづくりと町の魅力の PR（大人になってから美幌町に住みたい、訪れたいと思うきっかけ。例えば美幌高校での農業体験がメニューとなれば、美幌高校生にとっても貴重な学習機会となる）

○ 情報発信（安心感をあたえ、結婚や子育てに魅力があることをつたえる）

○ 商工観光のくらすわ美幌のような、北海道の住民でない視点での情報発信をもっと増やすことができたら良いと思いました。読んでいて「本州の人はこんなことに驚くんだ」と新しい発見がある。

○ コンパクトシティを推進し、大型スーパーも３店舗有りワンコインバスや公住、アパート、子育て施設、学校公共施設の将来的デザインを描きながら、美幌に永住して近隣市町に出勤してでも住みたいと思える町の良さをアピールしていく。そのためにも若い世代が世帯を持つ方にどう働きかけていくかが政策的な課題であると思う。町のＰＲボランティアとして、各世代や様々な職種の方に、町の取り組みをフェイスブックなどＳＮＳで発信してもらうようＰＲ隊を指名結成するとか‥

○ 安心・安全なまちをもっとアピールすべき。美幌町のように災害が少なく、小売り店も不便しない程度あり、交通の便にもすぐれた町は多くないと考える。ネットワーク社会において都市と地方の情報の差はほとんど無いと考える。身を助ける安全こそ最大の強みであると考えます。

○ 美幌に住み続ける利点などをアピール。

○ 実際に住んでみると、住みやすいという声があるので、住みやすさをアピールしていく。（買い物の利便性、町の広さ、公園等）

○ 美幌町は特に交通の利便性（空港まで 10 分）、自然環境（子どもも自然にたくさん触れることができ伸び伸びと）、病院が充実しているなどをアピールすることができます。

○ モノ・カネがない美幌町は有名人となるべきヒトを養成し美幌町のＰＲをして美幌町のセールスしてもらう取り組みに投資したほうがお金がかからない。人材育成により有名人を養成し、その人を見たさにヒトがあつまる町になればと思う。

○ 災害が少ない安全な地域であることをアピールする

○ 継続して美幌町に居住している方を特集にした記事の作成や表彰など、美幌町に住んでいてよかったと思える制度創設やイベントの開催を行う。

○ 口コミ。美幌町民がきちんと発信すれば、意外と多くの人が「へぇ、結構いいまち！」というのを聞く。前述、華はない(と思う)ので、じんわりと「良さ」を伝えたい。気長に。

○ 美幌が住みやすい町だということを知ってもらう。（オホーツク観光ツアーの開催宿泊は美幌。）
○ 美幌町をアピール（特産物や道の駅、イベント等）
○ スポーツ活動も盛んな町ですのでどんどん力を入れて色々な種目からオリンピック選手を出して美幌町を有名に！
○ 美幌は住んでみると住みやすい（災害少ない、気候がよい、食べ物おいしい、隣町に行けば買い物も便利）のでもっと前向きにＰＲ
○ 子育てや子供たちを見守る良い環境にある事など、良い面を沢山ＰＲしていく。

<子どもの時に良さを>

○ 子どもから学生世代に地元愛が根付き一旦町を離れてもまた戻ってきたいと想うようなまちづくり
○ 将来的にも継続して人口を維持･増加させるには、若者が戻ってくる町であるべき。美幌に住んだらこんないいことがあったとの「おいしい思い」を子どものうちに刷り込んでは
○ 田舎町で育った若い子達は、１度は都会に住むことを憧れるため、若い人達が多く減ってしまっていますが、その若い人達が何年後かにやっぱり自分の生まれ育った地元の美幌が良いと思って戻って来れるように、就職先の確保や子育てなどがしやすい環境を作ってあげることが必要
○ 小さい子どもの時にオホーツク管内の特色である自然を生かした教育を行って、最終的に戻ってきたいと思えるような取り組みが必要だと思います。アイデアとしては、ニセコにあるようなアウトドアアクティビーができる施設、森と水があるので可能。些細な事ですが、みどりの村の高低差を利用してロープを張り自然のジェットコースターのようなものから始めていくのはどうか

<町内に目を>

○ 対外向けではなく、住んでいる人が満足していれば人が人を呼ぶ。いつも念頭に女性、子供、60 代くらいの方の笑顔を思い浮かべて事業を発案し、取り組むことが重要と考える。
○ 少ない人数が移住してくることにお金を使うより、今住んでいる人が安心して暮らせて楽しい町にする施策にお金を使っていれば、必然と町外から人が流入してくる（外交施策より内需拡大！）

<コンパクト化>

○ 減少に歯止めが効かないのであれば、いっそのこと諦めて、町の中心に住民を集める。バラバラだと自治会活動も人が少なく、盛り上がらない。
○ ある程度の人口減は避けられないものであり、その中で「暮らし勝手がよいコンパクトシティ」

<分析>

○ 美幌町出身者で現在町外に住んでいる方に「美幌町を離れたきっかけ」や「現在住んでいる地域の魅力的なところ」、「美幌町がこんな環境になったら住みたい」など意見を求めることも必要に思います。
○ 美幌町は、国や道に比べて合計特殊出生率が高い。第３子までいる人も多い。なぜなのか。自衛隊があるから？子どもを育てやすい環境が整っているから？この部分を分析すると何らかのヒントが隠されているのかもしれない
○ 子育てにかかる負担から、子供が欲しくても２人目、３人目の子づくりに躊躇してしまうことが多いのではないか。小さな子を持つ親に改めてリサーチを行って、その要因を探る必要がある。
○ 特殊出生率が２を下回る現状をどう引き上げていくかが課題である。２で±０であり２以上

にならなければ、日本の人口は減少が続くことになる。子育て世代にとって何が要因なのかの把握が必要。

＜その他＞

○ 人口減少問題を冷静に受け入れつつ、自主自立のまちづくりを進めるべき。自治基本条例に示す基本理念「安心で住む喜びが実感できる美幌町」の実現に向け、先を見据えた大胆な政策を打ち出す

○ 基本的に働く場と住む場所を確保することで、若者流出を防ぐことができる。若者（女性）がいることで地道ながら出産で人口は増えていく。

○ 千葉県流山市など、実際に人口増の実績がある自治体の実施している子育て支援、教育環境の整備、エコで自然豊かなまちづくりの取組を参考に実行に移す（「規模が違う」と頭から否定するのではなく、やわらか頭で検討してみる。）

○ 子育て支援、雇用の確保、移住定住の促進等ありきたりのことですが、そのありきたりのことを少しずつでも充実、改善していくほかない。

○ 美幌で産まれ、美幌で育ち、美幌で働き、美幌で産み育てるというサイクルを確立することが必要。

○ 町外から見たときに子供を育てる環境や、老後生活していく環境が充実していれば人口の増加に繋がるのではないかと思う。

○ 着々と進む超高齢化にどう取り組むか。現役世代の自分たちが支えられる立場になったときのことを想定した施策の検討が必要。子ども達の負担を少しでも減らすためにも、自分が高齢者になったときにいかに現役世代に負担をかけずに生活していくかという視点で考える必要があるのでは。

○ 福祉もさることながら「居心地の良さ」も大事だと思う。美幌は最低限の用を足せる立地には恵まれているので、あとは「意外といいまち」「悪くない」「離れる理由もないかな」程度の気持ちを抱かせたい。(福祉を手厚くするのは必要だが「魚を釣ってあげる」ことにお金を使うより、「魚の釣り方を教えてあげる」ことにお金を使いたい。)

○ 他の市町村のまねでいいので成功しているアイデアを参考に。

○ 町内・近隣市町村各事業所における職員採用の拡充により特に男性が就職し町内定住する⇒将来家庭を持つ⇒子供を出産する⇒保育・預かり施設を充実させる⇒主婦も安心して働ける ⇒ 夫婦・家庭円満（びほろは居心地のいい街）⇒子供が成人し就職、町内定住し家庭を持つ

○ 高齢者と子ども達のつながりを強化する

○ 長生きを楽しめるまちづくりと言うより若者も楽しめるまちにしないと人口減少は止まらない。

○ 人口が減少することが全て悪いことではない。そこに暮ら町民が豊かで幸せと感じるまちを目指す

○ 人口の減少はあるが、美幌町として町民にいかに満足した暮らしを提供できるかが大事。